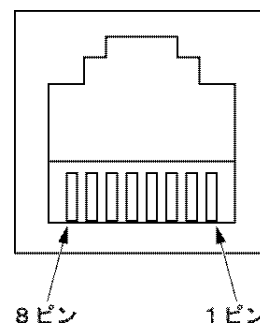
8　付録

外部インタフェース

1. 10BASE-T/100BASE-TX インタフェース

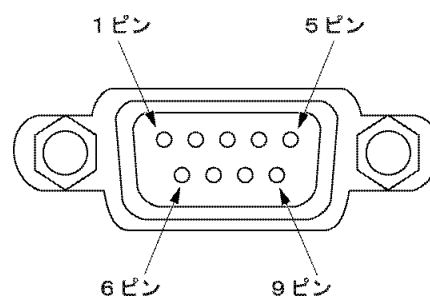
(1) 接続コネクタ
8 ピンモジュラジャック（RJ-45）

(2) 端子対応

ピン No.	信号	
	MDI	MDI-X
1	RD+	TD+
2	RD–	TD–
3	TD+	RD+
4	–	–
5	–	–
6	TD–	RD–
7	–	–
8	–	–

2. コンソールインタフェース（RS-232C インタフェース）

(1) 接続コネクタ
9 ピン D-Sub コネクタ（オス）

(2) 端子対応

ピン No.	信号	信号方向	
		HUB	DTE
1	DCD	←	
2	RxD	←	
3	TxD	→	
4	DTR	→	
5	Ground	N/A	
6	DSR	←	
7	RTS	→	
8	CTS	←	
9	No Connect	N/A	

(3) 通信方式

項目	設定
同期方式	調歩同期
通信速度	9,600～115,200 bps
キャラクタ長	8 ビット
ストップビット長	1 ビット
パリティ	なし
フロー制御	なし

拡張 MIB

装置拡張 MIB に定義されている MIB のツリー構造を以下に示します。

fujitsu OBJECT IDENTIFIER ::= { enterprises 211 }
product OBJECT IDENTIFIER ::= { fujitsu 1 }
nonos OBJECT IDENTIFIER ::= { product 127 }
pineapple OBJECT IDENTIFIER ::= { nonos 118 }
sh18xxb OBJECT IDENTIFIER ::= { pineapple 16 / 17}

fujitsu-sh18xxbProd OBJECT IDENTIFIER ::= { sh18xxb 1 }
agentConfigInfo OBJECT IDENTIFIER ::= { sh18xxb 2 }
swDevPackag OBJECT IDENTIFIER ::= { sh18xxb 3 }
swPortPackage OBJECT IDENTIFIER ::= { sh18xxb 4 }

- fujitsu-sh18xxbProd Group

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS
swProperty	fujitsu-sh18xxbProd (1)	OID	
swModule	swProperty (1)	OID	
swModule-Traps	swModule (1)	OID	
addressTableFull (1)	swModule-Traps (0)	OID	NA
overloadAlarm (2)	swModule-Traps (0)	OID	NA

- agentConfigInfo Group

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS
agentBasicInfo	**agentConfigInfo (2)**	**OID**	**NA**
agentRuntimeSwVersion(1)	agentBasicInfo (1)	Display String	R
agentPromFwVersion(2)	agentBasicInfo (1)	Display String	R
agentHwRevision(3)	agentBasicInfo (1)	Display String	R
agentSerialNumber(4)	agentBasicInfo (1)	Display String	R
agentBasicConfig	**agentConfigInfo (2)**	**OID**	**NA**
agentSystemReset(1)	agentBasicConfig (2)	Integer	RW
agentIpProtoConfig	**agentConfigInfo (2)**	**OID**	**NA**
agentIpUnauthAddr(1)	agentIpProtoConfig (3)	IP Address	R
agentIpUnauthComm(2)	agentIpProtoConfig (3)	Display String	R
agentIpTrapManagerTable(3)	agentIpProtoConfig (3)	OID	NA
agentIpTrapManagerEntry(1)	agentIpTrapManagerTable (3)	Table	NA
agentIpTrapManagerIpAddr(1)	agentIpTrapManagerEntry (1)	IP Address	R
agentIpTrapManagerComm(2)	agentIpTrapManagerEntry (1)	Display String	RW
agentIpTrapManagerStatus(3)	agentIpTrapManagerEntry (1)	Integer	RW

- swDevPackage Group

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS
swDevInfo	**swDevPackage(3)**	**OID**	**NA**
swDevInfoSystemUpTime(1)	swDevInfo(1)	Time Ticks	R
swDevInfoTotalNumOfPort(2)	swDevInfo(1)	Integer	R
swDevInfoSystemLedStatus(3)	swDevInfo(1)	Octet String	R
swDevInfoSaveCfg(4)	swDevInfo(1)	Integer	R
swDevCtrl	**swDevPackage(3)**	**OID**	NA
swDevCtrlSaveCfg(1)	swDevCtrl(2)	Integer	NA
swDevAlarm	**swDevPackage(3)**	**OID**	NA
swDevAlarmNewRoot(1)	swDevAlarm(3)	Integer	RW
swDevAlarmTopologyChange(2)	swDevAlarm(3)	Integer	RW

- swPortPackage Group

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS
swPortInfoTable	**swPortPackage(4)**	**OID**	**NA**
swPortInfoEntry(1)	swPortInfoTable(1)	Table	NA
swPortInfoPortIndex(1)	swPortInfoEntry(1)	Integer	R
swPortInfoType(2)	swPortInfoEntry(1)	Integer	R
swPortInfoLinkStatus(3)	swPortInfoEntry(1)	Integer	R
swPortInfoNwayStatus(4)	swPortInfoEntry(1)	Integer	R
swPortInfoFlowCtrlStatus(5)	swPortInfoEntry(1)	Integer	R 注)
swPortCtrlTable	**swPortPackage(4)**	**OID**	**NA**
swPortCtrlEntry(1)	swPortCtrlTable(2)	Table	NA
swPortCtrlPortIndex(1)	swPortCtrlEntry(1)	Integer	R
swPortCtrlAdminState(2)	swPortCtrlEntry(1)	Integer	RW
swPortCtrlNwayState(3)	swPortCtrlEntry(1)	Integer	RW
swPortCtrlFlowCtrlState(4)	swPortCtrlEntry(1)	Integer	RW 注)
swPortCtrlStpState(5)	swPortCtrlEntry(1)	Integer	RW
swPortCtrlStpPathCost(6)	swPortCtrlEntry(1)	Integer	RW
swPortCtrlCleanAllStatisticCounter(7)	swPortCtrlEntry(1)	Integer	NA

注） フローコントロールは未サポートです。設定しないでください。

アクセスレベル

N/A（Not-Access）：マネージャからはどのようなオペレーションによるアクセスもできません。

R（Read-only）：読み出しアクセスのみ可能。

RW（Read-Write）：読み出しと書き込みのアクセスが可能。

ログ一覧

1. エラーログ

項	ログ表示	説　明
1	Authentication Failure	マネージャから、無効なコミュニティ名を使用して本装置にログオンしようとした時にロギングします。

2. ラインログ

項	ログ表示	説　明
1	Port Link Up	ポートのリンクアップ時にロギングします。
2	Port Link Down	ポートのリンクダウン時にロギングします。
3	Port overload alarm	ポートの帯域を指定した以上のフレームを中継した場合にロギングされます。

3. メッセージログ

項	ログ表示	説　明
1	Cold start	装置の起動でロギングします。
2	System up	装置が起動し、コンソール／TELNET で装置の操作が可能になった時点でロギングされます。
3	Warm start	Restart System の実行によりロギングされます。
4	New root	STP 使用時にルート・ブリッジになったときにロギングされます。(装置電源オン、または Restart System 実行時にもロギングされます)
5	Topology change	STP 使用時にトポロジーの変更が発生したときにロギングされます。
6	Address table full	学習テーブルのエントリが一杯になったときロギングされます。
7	STP(Spanning Tree Protocol) is enable	STP 機能が Enabled に設定されたときにロギングされます。
8	STP(Spanning Tree Protocol) is disable	STP 機能が Disabled に設定されたときにロギングされます。
9	Configuration saved to flash	”Save Changes” を実行したときにロギングします。
10	Successful login though console	コンソールからログインしたときにロギングします。
11	Successful login though telnet	TELNET からログインしたときにロギングします。
12	Successful logout though console	コンソールからログアウトしたときにロギングされます。
13	Successful logout though telnet	TELNET からログアウトしたときにロギングされます。
14	Console session time out	コンソールの操作がなく自動的にログアウトしたときにロギングします。
15	TELNET session time out	TELNET の操作がなく自動的にログアウトしたときにロギングします。

4. トラップログ

項	ログ表示	説　明
1	Cold start	装置の起動でロギングします。
2	Warm start	Restart System の実行によりロギングされます。
3	New root	STP 使用時にルートブリッジになったときにロギングされます。（装置電源オン、または Restart System 実行時にもロギングされます）
4	Authentication failure	マネージャから､無効なコミュニティ名を使用して本装置にログオンしようとした時にロギングされます。
5	link down	ポートのリンクダウン時にロギングします。
6	link up	ポートのリンクアップ 時にロギングされます。
7	Topology change	STP 使用時にトポロジーの変更が発生したときにロギングされます。
8	Address table full	学習テーブルのエントリが一杯になったときロギングされます。
9	overload alarm	ポートの帯域を指定した以上のフレームを中継した場合にロギングされます。

ツイストペアケーブルの放電方法

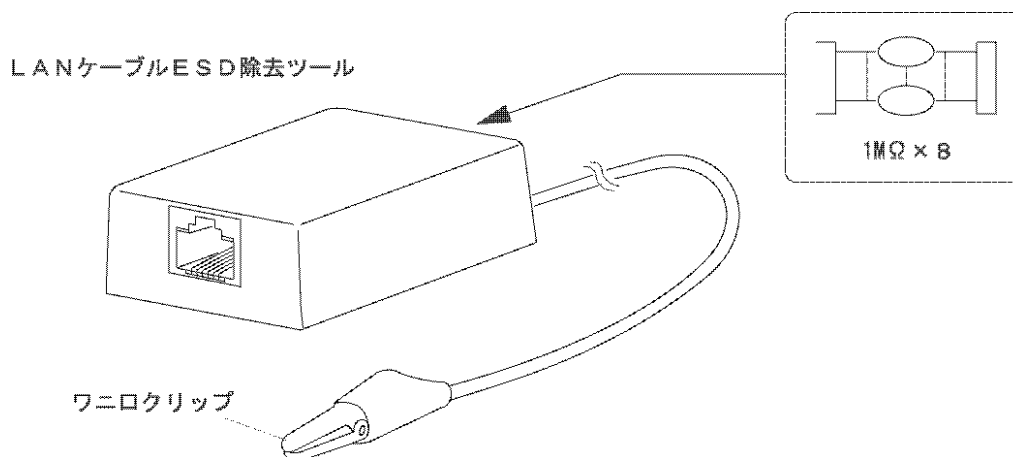
ツイストペアケーブルを機器に接続する直前に、LAN ケーブル ESD 除去ツールを用いて帯電している静電気を FG（ビルアースなど）に放電してください。このとき、ツイストペアケーブルの両端は機器から抜いておいてください。

放電した後はツイストペアケーブルを速やかに機器へ接続してください。放電後、ツイストペアケーブルを機器へ接続しないまま長時間放置すると、放電効果は失われるので注意してください。

注） 電子機器類の FG は使用しないでください。放電の際には必ず電源系 FG、ビルアース等の接地されている FG を使用してください。

［ＬＡＮケーブルＥＳＤ除去ツール］

ツイストペアケーブルの ESD 除去ツールには下記の製品があります。

メーカ：トシシステム株式会社
品名：　LAN ケーブル ESD 除去ツール
型名：　TS2002-001

[治具の使用方法]

(1) LAN ケーブル ESD 除去ツールにツイストペアケーブルの一方のプラグを差し込む。
（ツイストペアケーブルの状態は両端開放及び片側開放どちらでも可能）

(2) LAN ケーブル ESD 除去ツールのワニロクリップを、以下の条件に従い FG に接続（接触）する。
・ 2、3 秒では放電しきれないため、最低 1 分間接触させること。
・ 電子機器の FG には接続しないこと。
・ 電源の FG を使用するときは、AC 電源と短絡しないように注意すること。

(3) 放電作業が完了したら、LAN ケーブル ESD 除去ツールをツイストペアケーブルから外し、ツイストペアケーブルを装置に速やかに接続する。

(4) 接続するツイストペアケーブルを 1 本ずつ(1)～(3)まで繰り返し実施する。

注） 放電作業は、ツイストペアケーブルの両端が装置（Hub／ルータ／ワークステーション）に接続されていない状態で行なうことを推奨します。